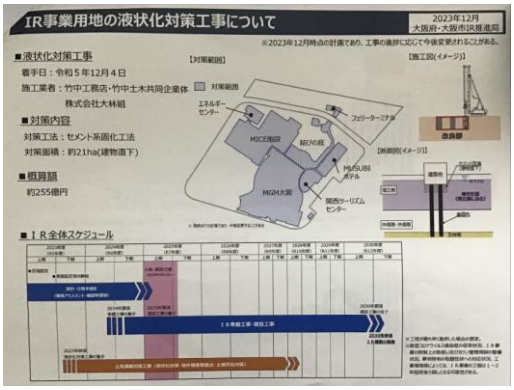
夢洲 IR カジノ工事と夢洲万博

写真は大阪市建設局が今年 10 月 20 日に公表した「夢洲関連事業における工事車両の円滑な運行について」から。

万博「工事期間中」における工事車両の影響検討のシュミレーション結果は、夢洲周辺の各ボトルネック交差点での交通容量に対する通行車両想定（工事・物流含む）の割合は約 69～90%であり、夢洲外から会場に至るルートでは渋滞は発生しない見込み。

最も厳しい咲洲トンネル西交差点の 14 時台において、容量 1780pcu/h に対し、運行台数 1605pcu/h、90%となっている。これは信号秒数を調整して、容量を増加したあとの数値である。万博協会がある咲洲庁舎 43 階から夢洲を眺めると、手前の咲洲トンネル付近の渋滞がよく見える。容量を増加しても、容量に対し運行台数が 90%なのは限界に近いのではないか。



写真下は大阪市会の都市経済委員会質疑で配布された「IR 事業用地の液状化対策工事について」。大阪府・大阪市 IR 推進局、12 月と書かれている。4 日に着手された工事の施工業者は竹中工務店・竹中土木共同企業体と大林組。対策工法はセメント系固化工法、対策面積は建物直下約 21ha、概算額約 255 億円となっている。

IR 全体スケジュールに注目した。液状化対策・地中障害物撤去・土壌汚染対策という土地課題対策は 2027 年度あたりまで。環境アセスメント・確認申請等の設計・行政手続きが 24 年度下期半ば、そして IR 準備工事が 24 年夏頃、建設工事が 25 年春頃に着手され、30 年夏頃に建設工事の完了と記載されている。

4 日に始まった液状化対策などの土地課題対策工事と IR 工事が、万博工事や万博開催中も同時進行で進むことになる。IR 工事が、万博工事ないし万博開催に渋滞など大きな影響を及ぼすのは目に見えている。それと液状化対策などは大阪市が負担するが、IR 工事と並行して実施され、両者は一体のものではないか。IR カジノ事業者に土地が引き渡されないまま、工事が着工されたのは問題ではないのか。読売新聞 5 日朝刊に、IR の整備は実質的に始まったが、事業の「白紙撤回」の可能性はなお残されていると。事業者が「解除権」を失効させ、土地が引き渡されるのはいつなのか。

（2023 年 12 月 8 日）